

ひょうご高校大学コンソーシアム 2025 意見交換会
生成 AI 時代の学びをつなぐ～高校から大学への AI リテラシー～ 実施報告書

1. 日 時：2025 年 12 月 8 日（月）14:00～17:07
2. 場 所：兵庫国際交流会館 1階 Nadacom Station/オンライン（Zoom）
3. 対 象：大学コンソーシアムひょうご神戸の加盟校教職員、兵庫県下の高等学校教員
4. 参加者：総計 75 名（会場 58 名、オンライン 17 名）

【加盟校：20 校 30 名】

関西国際大学(6)、神戸親和大学(1)、芦屋大学(3)、大手前大学/大手前短期大学(2)、関西学院大学(1)、甲南大学(2)、神戸大学(1)、神戸学院大学(1)、神戸芸術工科大学(1)、神戸国際大学(1)、神戸松蔭大学(1)、神戸女学院大学(1)、神戸女子大学(1)、神戸常盤大学(1)、宝塚医療大学(1)、姫路大学(2)、兵庫教育大学(2)、兵庫県立大学(1)、流通科学大学(1)

【高校：31 校 43 名】

明石市立明石商業高等学校(1)、尼崎市立尼崎高等学校(1)、神戸星城高等学校(5)、兵庫県立明石高等学校(1)、兵庫県立明石南高等学校(2)、兵庫県立尼崎稲園高等学校(1)、兵庫県立尼崎小田高等学校(1)、兵庫県立家島高等学校(1)、兵庫県立伊丹北高等学校(1)、兵庫県立小野工業高等学校(1)、兵庫県立川西北稜高等学校(1)、兵庫県立錦城高等学校(1)、兵庫県立神戸北高等学校(1)、兵庫県立神戸鈴蘭台高等学校(1)、兵庫県立神戸高塚高等学校(2)、兵庫県立三田祥雲館高等学校(1)、兵庫県立洲本実業高校(1)、兵庫県立青雲高等学校(1)、兵庫県立宝塚高等学校(1)、兵庫県立長田高等学校(3)、兵庫県立西宮今津高等学校(1)、兵庫県立西宮苦楽園高等学校(1)、兵庫県浜坂高等学校(1)、兵庫県立姫路工業高等学校(1)、兵庫県立姫路商業高等学校(2)、兵庫県立姫路西高等学校(1)、兵庫県立姫路東高等学校(1)、兵庫県立兵庫高等学校(1)、兵庫県立御影高等学校(3)、兵庫県立湊川高等学校(1)、兵庫県立社高等学校(2)

【行政：1 団体 2 名】

兵庫県教育委員会(2)

5. 開催趣旨

兵庫県内の高校と大学の連携を推進するため、2014 年度より、県下高等学校と大学コンソーシアムひょうご神戸、兵庫県校長協会及び兵庫県教育委員会が協力し、意見交換会「ひょうご高等学校大学コンソーシアム」を開催している。本年度は、近年の生成 AI をはじめとするデジタル技術が社会において不可欠な存在となり、情報教育の重要性が一層高まっていることから、「高大における生成 AI をどのように教えるか」をテーマに、高校と大学の学びの接続について、理解を深める機会とした。なお、本意見交換会は、「高等教育のグランドデザイン（2040 年）」答申を踏まえた、本コンソーシアムにおける高等教育の在り方に関する継続的な議論の一環として位置づける。

6. プログラム

第 I 部（14:00～15:50）

(1)開会挨拶（14:00～14:15）

①大学コンソーシアムひょうご神戸 高大連携委員会 委員長校

関西国際大学 副学長 藤木 清先生

②兵庫県校長協会進路指導委員会委員長 兵庫県立長田高等学校 校長 藤原 生也先生

③兵庫県教育委員会 高校教育課教育指導班 指導主事 都築 紫峰氏

(2)生成 AI 教育に関する話題提供（14:15～15:22）

①兵庫県立姫路商業高校 校長 米谷 繁先生、教諭 宅間 聖一先生

②関西国際大学 客員准教授 宮脇 大先生

③兵庫県教育委員会 高校教育課 教育 DX 推進室長 松岡 克晋氏

(3)高校と大学の意見交換：生成 AI 教育の実情について (15:22～15:50)

休 憩 (15:50～15:55)

第Ⅱ部 (15:55～17:07)

(1)合同進学説明会 ～大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校の特色紹介～ (登壇順)

芦屋大学／大手前大学・大手前短期大学／関西国際大学／神戸大学／神戸学院大学／神戸国際大学／
神戸女学院大学／神戸女子大学／神戸親和大学／神戸常盤大学／宝塚医療大学／姫路大学／
兵庫教育大学／流通科学大学／関西学院大学／甲南大学／神戸芸術工科大学／神戸松蔭大学

(2)閉会挨拶

大学コンソーシアムひょうご神戸 高大連携委員会 委員長校
関西国際大学 准教授 高大連携室長 前田 哲男氏

7. 内容詳細

(1)第Ⅰ部：「生成 AI 教育に関する話題提供」及び「高校と大学の意見交換：生成 AI 教育の実情について」

①生成 AI 教育に関する話題提供

まず、兵庫県立姫路商業高校の宅間聖一教諭から、各学年での具体的な実践事例を示しながら、生成 AI を中心としたカリキュラム体系化および評価基準の整備について説明があった。続いて、同校の米谷繁校長からは、企業との連携による PBL 型学習への展開について述べられた。

次に、関西国際大学の宮脇大准教授から、「大学教育における生成 AI 活用講義の設計と実践」と題して、ツール習得や

リスク・著作権に関する学習、プレゼンテーション指導など、生成 AI 講義における工夫や課題について説明があった。最後に、兵庫県教育委員会高校教育課教育 DX 推進室の松岡克晋室長から、「県立学校における教育 DX の推進」として、学校現場における生成 AI の利活用、教育 DX ロードマップ、次期学習指導要領の方向性等について説明があった。



②高校と大学の意見交換「生成 AI 教育の実情について」

参加者 5～6 名を 1 グループとし、高校教員と大学教職員が 9 グループに分かれ、講演を踏まえて、自校の生成 AI 教育の現状や課題等について意見交換を行った。各グループでは、ファシリテーターを中心に、活発な議論が展開された。



(2)第Ⅱ部：合同進学説明会 (大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校の特色紹介)

大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校 19 校による合同進学説明会を行った。各校は約 3 分間、スライドを用いて、①大学の強み、②新設学部、③教育・進路支援、④就職率などの特色を紹介した。

8. 事後アンケート結果

(1)事後アンケートの回答者数及び回答率

参加者 (行政除く)：73 名、回答数：46 名、回答率：63%

(2)アンケート結果の詳細

本意見交換会全体の満足度は、「非常に満足」「満足」が計 44 名 (95.7%)、「やや不満」が 1 名 (2.2%) であり、概ね高評価であった。主な理由として、「大学や他校の実践例を聞くことができ、課題が共有

できた」「高等学校の実態を知ることができた」「AI というテーマ設定が良く、最新動向が理解できた」
「大学と高等学校間にて情報交換ができる機会は貴重である」などが挙げられた。一方で、「大学と高等学校間のディスカッションの時間をもっと確保してほしい」「合同進学説明会での各校あたりの時間が短い」「スライド操作がスムーズに行われなかった」などの意見もあり、時間配分や投影資料の準備に課題が残った。

(以下、事後アンケート抜粋)

Q1：「ひょうご高等学校大学コンソーシアム 2025」全体に関する感想

- ・テーマ設定がよかった（入試は一般的なので、現在話題となっている AI は良かった）
- ・県下の高校・大学が一堂に会する場がないので、年に数回こういう場を設けてほしい。
- ・各大学の取り組みが参考になった。
- ・高等学校教諭の考えを聞くことができ有意義だった。

Q2：第 I 部「生成 AI 教育に関する話題提供」に関する感想

- ・高校生に生成 AI を活用させるために体系的な指導プランを聞いて良かった。
- ・AI 活用の大学講座がとても興味深く、取り入れてみようと思った。
- ・カリキュラム及びガイドラインを作成し指導していくことが必要であるという気付きがあった。
- ・高等学校、大学、兵庫県教育委員会の立場からの意見が聞いて良かった。

Q3：第 I 部「高校と大学の意見交換」に関する感想

- ・今後の AI 活用について課題意識が整理できた。
- ・近隣大学の生の声を伺うことができ、他校の先生との情報交換も有意義であった。
- ・日頃聞くことのできない高校の現場の先生の話を書くことにより、高校の先生がどのような悩みがあるのかがわかり、参考になった。
- ・意見交換（ディスカッション）する時間が、もっとあった方がよい。

Q4：「合同進学説明会～大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校の特色紹介～」に関する感想

- ・各大学の最新情報を伺え、各大学の特色をコンパクトに学ぶことができた。
- ・本校でも実践できるようなアイデアが複数あったので参考にしたい。
- ・大学の特色紹介を 3 分で実施することが厳しく、もう少し説明時間がほしい。
- ・PC、プロジェクターの問題なのか、スライドがうまく操作できなかった。

9. 所感

近年のひょうご高校大学コンソーシアムでは「探究学習」をテーマとすることが多かったが、今年度は高校・大学双方で関心が高まっている生成 AI を取り上げたことに意義があると考えられる。高校、大学、県教育委員会それぞれの立場から事例を交えた話題提供が行われ、教育現場における生成 AI の活用や課題について具体的な情報を共有できたことは、参加者にとって有益であったと考える。アンケート結果からも、テーマ設定や情報交換の場に対する高い評価が示されており、今後の教育連携に向けた基盤づくりに寄与したといえる。一方で、意見交換や合同進学説明会では時間不足や投影資料の準備不足が指摘されており、運営面で改善の余地がある。今後、限られた時間内でも公平で充実した議論と情報提供が可能となるよう、より効果的な場を提供することが必要である。

以上